

競 技 注 意 事 項

本大会は、2022年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会要項および申し合わせ事項によって行う。

1 練習について

練習は、補助競技場および雨天練習場(使用方法について下記参照)を原則とする。砲丸投の練習は、係員の指示に従って補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみで行う。

補助競技場の使用について

レーンの使用については以下の通りである。

- ・ 1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
 - ・ 3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
 - ・ ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路5～10レーンのみとする。
 - ・ 多目的広場側直走路7・8レーンは女子100mH、9・10レーンは男子110mHとする。
- ※リレーの練習は用具倉庫前第2コーナー付近を利用して行うこと。第4コーナー付近でのリレー練習は行ってはならない。

雨天練習場の使用について

- ① 雨天練習場でのピストルの使用は禁止する。
- ② 雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止する。
- ③ シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ④ ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。以外は、補助競技場で行うこと。
- ⑤ ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
- ⑥ ハードルは使用できない。

棒高跳について

競技開始60分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。ただし、他の競技に影響がでないように、審判員の指示に従うこと。

2 スパイクシューズの制限について

- ① 全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳は12mm以下とする。
- ② 競技で使用するスパイク及びシューズは点検しない。ただし、審判長の権限により、靴底の計測を求められた場合は計測する。計測の内容としては、TR5.13.3(国内TR5.2)にある厚さ等を確認する。なお、[陸協HP掲載資料\(日本陸連HP:TR5:シューズのルール再改定について\)](#)を確認すること。
- ③ 規格外スパイク及びシューズについて、審判員の注意・指導に従わない競技者には、今後の競技会参加も含め、厳しく対応いたします。

3 アスリートビブスについて

- ・ アスリートビブスは指定の大きさのまま数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技(走高跳・棒高跳・走幅跳)に出場する選手はどちらか一方でもよい。

- ・トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの左右横や後方につけること。競技終了後必ず係員に返却すること。
- ・3000mは別ナンバーカードを招集所にて配布する。

4 選手招集について

- ① 選手招集場所は第2コーナー付近とする。
- ② 選手招集開始時刻、招集完了時刻は次のとおりとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	競技開始30分前	競技開始20分前
フィールド競技（四種競技を含む）	競技開始40分前	競技開始30分前
フィールド競技 男子 棒高跳	競技開始70分前	競技開始60分前
フィールド競技 男女 走幅跳 男 砲丸投	競技開始50分前	競技開始40分前

※棒高跳は現地招集を行う。

- ③ 招集完了時刻に遅れた選手は、棄権となる場合があるので時間を厳守すること。
- ④ 2種目を同時に出場する選手は、あらかじめその旨を本人または代理人が競技者係に申し出る。2種目同時に出場する場合は、トラック競技を優先する。
- ⑤ リレー種目に出場するチームは、その種目の1組目の招集完了時刻の1時間前までにオーダー用紙を競技者係まで提出する。**※一度オーダー用紙を提出したら、その後の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。**用紙は、招集所にて準備する。
- ⑥ やむを得ず棄権する場合は、競技者係に申し出る。

5 競技用具について

- ① 競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判員が実施する。
- ② 練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んではいならない。

6 競技について

- ① その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- ② トラック競技のスタートについては、下記のとおりとする。
「不正スタートについては、各レースでの不正スタートは1回目からすべて失格とする。」
- ③ スターターの合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- ④ 短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路(曲走路)を走ること。
- ⑤ トラック競技は全て写真判定で行う。
- ⑥ トラック競技において、同記録者がでた場合は、写真判定主任により写真を拡大し細部（電気時計1/1000）まで読み取り着差の判定をする。ただし、着順優先とし、各組上位者のみとする。
- ⑦ レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- ⑧ リレー競技のマーカの使用は1カ所とする。使用したマーカはそのチームで処理する。
- ⑨ 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を大型映像で表示する。
- ⑩ トラック競技の予選はタイムレースとし、上位8名が決勝に進出することができる。ただし、男女1500mについては、予選タイムの上位16名が決勝に進出することができる。なお、

同記録の場合は写真を拡大し、写真判定主任により決勝進出者を決定する。

- ⑪ 男子3000mについては参加人数が少ないため、1日目に決勝を実施する。
- ⑫ 競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- ⑬ 携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできない。コ－チエリアからのコ－チの持つ映像を見せることはできる。ただし、選手が機器等を手に持って画像を確認することはできない。

7 走高跳・棒高跳のバーの上げ方

		練習							以降
走高跳	男子	140	145	150	155	160	165	170	3cm 刻み
	男混	135	140	143	146	149	152	155	3cm 刻み
	女子	125	130	135	140	145	148	151	3cm 刻み
	女混	115	120	123	126	129	132	135	3cm 刻み
棒高跳		160	170	190	210	230	250	270	10cm 刻み

第1位決定のために行うバーの上げ下げは、

走高跳 2 cm
 棒高跳 5 cm 単位とする。

8 競技場への入退場について

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

- 第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技
- 第2ゲート：1500mおよび棒高跳・投てき競技
- 第3ゲート：第3コーナー付近からスタートするトラック競技および走高跳
- 第4ゲート：100m付近からスタートするトラック競技および走幅跳

9 表彰について

・各種目（個人：1～8位・リレー：1～3位）の入賞者に賞状を授与する。ただし、表彰式は行わないので、各校引率者が、南エントランスに取りに来ること。

10 その他

- ① 本大会において標準記録を突破した者は、第49回全日本中学陸上競技選手権大会に出場できる。
- ② 応急処置を要する場合やその他健康上の問題が生じた場合、メインスタンド下の医務室に連絡すること。
- ③ 記録は、記録の掲示については、競技終了後、大型映像で表示する。競技場メインスタンド下、正面玄関付近での記録掲示は行わない。なお、記録速報を愛媛陸協HPから確認すること。
- ④ 監督会議は実施しないので、各校監督連絡事項を確認しておくこと。

○競技会で使用される主な略号について

日本語表記	略号
欠場	DNS
途中棄権	DNF
記録なし	NM
失格	DQ
標準記録突破による通過者 または順位による通過者	Q
記録による通過者	q
愛媛県新県記録（愛媛県タイ記録）	PR（=PR）
愛媛県高校新記録（愛媛県高校タイ記録）	PHR（=PHR）
愛媛県中学新記録（愛媛県中学タイ記録）	PJR（=PJ）
大会記録	NGR